

# トビウオ通信 (R4 第5号)

https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/ (TEL 0855-22-1720)

## 《令和3年漁期の底びき網漁業の動向》

### 小型底びき網第1種漁業（かけまわし）

#### 1 隻当たり漁獲量・水揚金額ともに平年並み

島根県の小型底びき網第1種漁業（かけまわし）38隻の令和3年漁期（令和3年9月1日～令和4年5月31日）の総漁獲量は3,438トン、総水揚金額は15億9,242万円でした。

また、1隻当たりの漁獲量（以下、CPUE）は92.4トン、水揚金額は4,278万円で、漁獲量は平年を4%下回り、水揚金額は平年を5%上回りました（過去10ヶ年平均：96トン、4,060万円）（図1）。

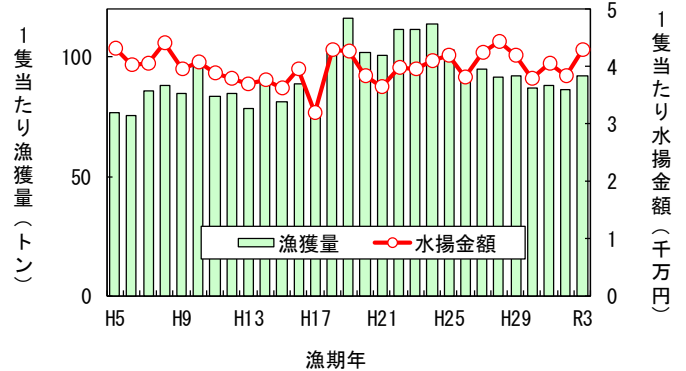


図1 小型底びき網第1種漁業における1隻当たり漁獲量と水揚金額の経年変化

#### ソウハチ、ムシガレイは平年を下回る

ソウハチのCPUEは16.7トンで平年の9割（平年比87%）、ムシガレイのCPUEは2.6トンで平年の9割（平年比88%）でした。ヒレグロのCPUEは4.7トンで、平年の6割と低調でした。過去10年間（H24年～R3年）のCPUEの動向は、ソウハチは「減少」、ムシガレイは「微減」、ヒレグロは「減少」の傾向にあります。一方、アカガレイのCPUEは5.6トンで、平年の9割でしたが、ここ10年で見ると増加傾向にあります。

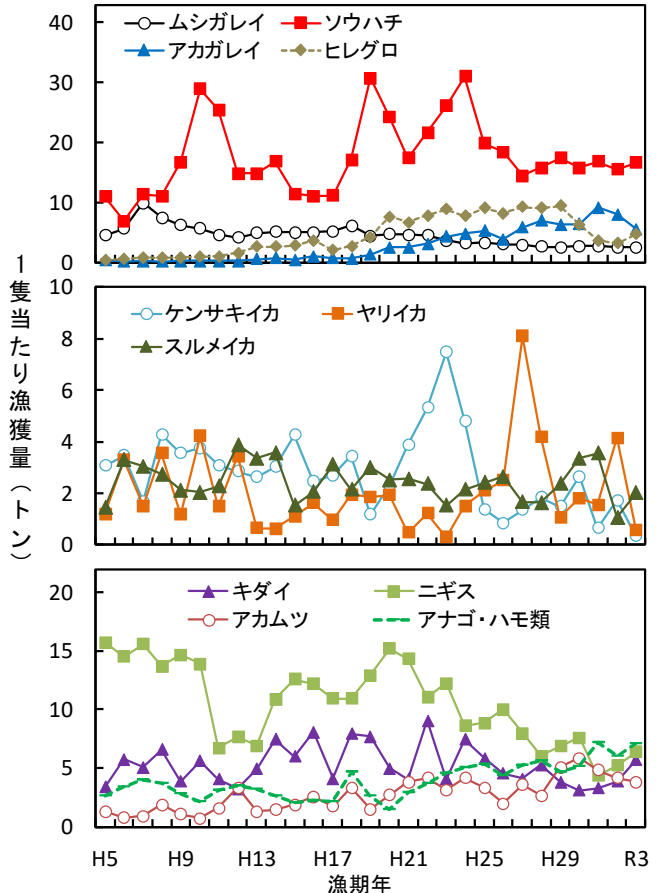


図2 小型底びき網第1種漁業における主要魚種の漁獲動向

#### ケンサキイカは依然として低水準、ヤリイカは低調

ケンサキイカのCPUEは0.3トンで、前年の2割、平年の1割となり、平成5年漁期以降で最低の水揚げを記録し、依然として低水準が続いています。ヤリイカのCPUEは0.6トンで、好調であった前年（4.1トン）から一転し、前年の1割、平年の2割と低調でした。スルメイカのCPUEは2.0トンで前年の1.9倍、平年の9割でした。

#### アナゴ・ハモ類は好調、アカムツは平年並み

アナゴ・ハモ類のCPUEは7.0トン、平年の1.3倍で好調でした。アカムツのCPUEは3.8トン、平年の1.0倍で平年並みでしたが、ここ3年は減少傾向にあります。キダイのCPUEは5.7トン、平年の1.3倍で、平年を上回った一方で、ニギスは6.4トン、平年の8割で、平年を下回りました。両魚種とも、ここ10年で見るとCPUEは減少傾向にあります。

この他、アンコウ類のCPUEは10.1トンで平年の1.4倍と好調でしたが、マダラのCPUEは1.1トンで平年の2割と低調でした。

#### <文中の語句説明>

- ☞ 平年は、過去10年〔平成23年漁期～令和2年漁期〕の平均です。
- ☞ 前年・平年との比較は、当年との比率が110%より高い場合は「上回る」、90～110%は「並み」、90%より低い場合は「下回る」としています。

## 沖合底びき網漁業(2そうびき)

### 1 統当たり漁獲量は平年並み、金額は平年を上回る

浜田漁港を基地とする沖合底びき網漁業（操業統数 4 統）の令和 3 年漁期（令和 3 年 8 月 16 日～令和 4 年 5 月 31 日）の総漁獲量は 2,289 トン、総水揚金額は 14 億 2,816 万円でした。

また、1 統当たりの漁獲量（CPUE）は 572 トン、水揚金額は 3 億 5,704 万円で、漁獲量は平年を 9% 下回り、水揚金額は平年を 15% 上回りました（過去 10 年平均：626 トン、3 億 1,119 万円）（図 3）。

### ムシガレイ、ソウハチとも平年を下回る

ムシガレイの CPUE は 28 トンで平年の 5 割、ソウハチの CPUE は 32 トンで平年の 8 割の水揚げでした。過去 10 年間（H24 年～R3 年）の CPUE の動向は、ムシガレイは「減少」、ソウハチは「横ばい」の傾向にあります。一方、ヤナギムシガレイの CPUE は 16 トンで平年の 1.4 倍でした。

### ケンサキイカ、ヤリイカとも低調

ケンサキイカおよびヤリイカの CPUE は、それぞれ 27 トン、平年の 6 割および 1.3 トン、平年の 1 割で、ともに平年を下回る低調な水揚げでした。ケンサキイカは、前漁期の春季は記録的な豊漁であった一方で、秋季は令和元年漁期以降、3 漁期に渡って不漁が続いています。ヤリイカは久しぶりの豊漁に沸いた前漁期（29 トン）から一転し、昭和 61 年漁期以降で最低であった平成 23 年漁期（1.3 トン）と同等の記録的不漁となりました。

### アナゴ類は平年を上回る、アンコウ類は平年並み

アナゴ類の CPUE は 48 トンで平年の 1.1 倍、アンコウ類の CPUE は 34 トンで平年の 1.0 倍でした。過去 10 年間（H24 年～R3 年）の CPUE の動向は、アナゴ類は「増加」、アンコウ類は「微増」の傾向にあります。

### アカムツ、キダイは平年を上回る、マフグは依然として低水準

アカムツの CPUE は 72 トン、平年の 1.7 倍で、平年を上回る水揚げとなり、近年の減少傾向から増加に転じました。キダイの CPUE は 84 トン、平年の 1.3 倍で、平年を上回りました。マフグの CPUE は 6 トン、平年の 2 割で、依然として低水準が続いています。

この他、マダラの CPUE は 15 トンで平年の 1.8 倍、マトウダイの CPUE は 38 トンで平年の 2.0 倍、マダイの CPUE は 22 トンで平年の 1.4 倍と好調でしたが、カワハギ類の CPUE は 8 トンで平年の 4 割、ニギスの CPUE は 2 トンで平年の 1 割と低調でした。

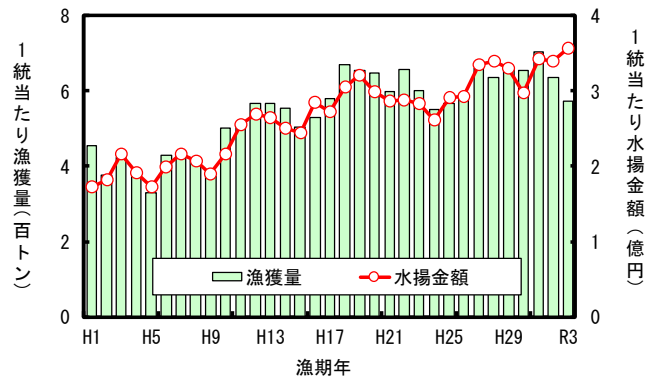


図 3 浜田漁港を基地とする沖合底びき網漁業における 1 統当たり漁獲量・水揚金額の経年変化

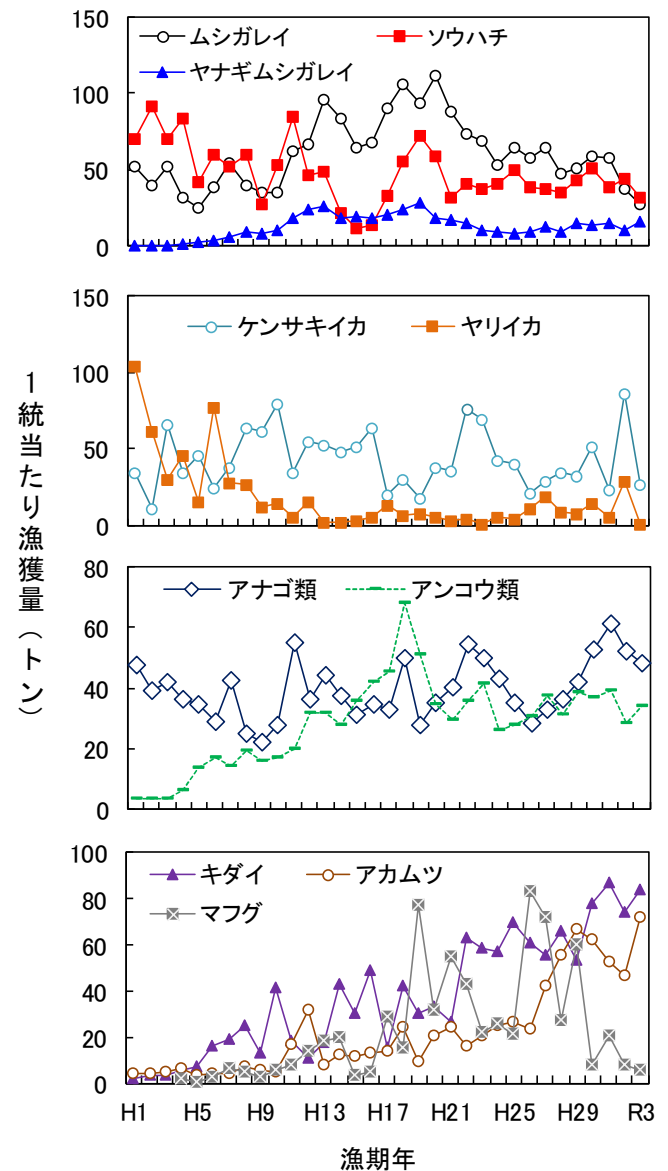


図 4 沖合底びき網漁業における主要魚種の漁獲動向